第15回　日本在宅医学会大会　プログラム別　詳細情報

カテゴリー	シンポジウム
タイトル	被災地に学ぶ～医療過疎地域で在宅医療をどう展開するか？
日　　時	平成 25 年 3 月 30 日　10：00～12：00
会　　場	真珠の間Ａ
演　　者	気仙沼市立病院･横山　成邦先生、村岡外科クリニック･村岡　正朗先生、気仙沼市立本吉病院･川島　実先生、祐ホームクリニック石巻･武藤　真祐先生、山梨市立牧丘病院・整形外科・古屋　聡先生
企画趣旨	在宅医療がおおいに注目されている昨今でも、そのモデルは人口の多い地域を中心に考えられている。ところが、日本の山間地、沿岸部、離島など、いわゆるへき地に属する地域は、都市部よりも「超高齢化」「交通手段の不足」が当然目立っており、在宅医療の必要性が高い地域であるが、しかし！例外なく医療機関や医療従事者も少なくて、つまり「医療過疎地域」である。 一昨年（在宅医学会開催予定時からみて）の東日本大震災は、東北の医療過疎地域に大きな災禍をもたらした。そのなかの気仙沼市でも石巻市でも、人的にも施設的にも大きな被害を受けた。 今回のシンポジウムでは、震災前にはリソースも不足していて、在宅医療はさかんでなかった気仙沼市において、震災がおこって在宅支援の必要性が急増して、「気仙沼巡回療養支援隊」という在宅医療のための支援チームが成立、半年間の活動を経て終了し、現在にいたるまでの経過を、自らも被災しこれらのチームにも直接たずさわってきたふたりの医師のお話からたどる。そして、病院自体が大きな被害を受け、震災を機に常勤医がいなくなり、外部からの医療支援を受けやっていきながらも、昨年 10 月から新たな常勤医が着任、現在は気仙沼市本吉地区を中心に在宅医療を展開している本吉病院の医師からの報告を聞く。さらに広大な地域のなかに被害がはげしいところとそうでないところが混在した石巻市において、在宅医療に特化したサテライト型の診療所をつくり、外部の医師の支援をうまく構成しながら、東京と石巻の活動を両立する医師の取り組みを聞く。 上記の医師の話に加え、愛媛県において、松山にベースをおいて俵津という医療過疎地域をサポートする大会長の永井康徳医師の知見を加え、「医療過疎地域で在宅医療をどう展開するか？」という難しいがぜひ実現していきたい課題に挑む。